

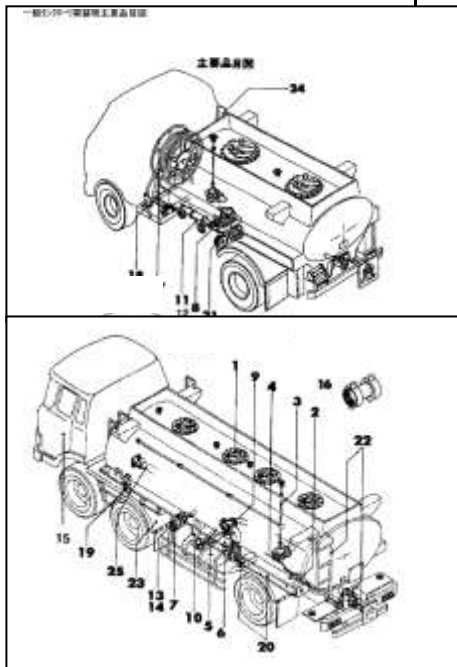
## 商用車架装物リサイクルに関する自主取組みの進捗状況について

本取組みは両工業会共同で2002年11月以降実施してきたものである。活動概要は以下のとおり。

1. リサイクル設計の推進 : (1)車体メーカー各社にて製品展開拡大中。  
(2)環境基準適合ラベルの貼付目標達成済み。  
(3)易解体性向上・解体マニュアル充実のため平ボデー、バン型車解体実験を実施。設計への反映、解体マニュアル記載内容見直しを推進。
2. 環境負荷物質の使用削減 : 鉛、六価クロム、水銀、カドミウムの4物質すべて目標達成を継続。
3. リサイクル・適正処理の推進 : 協力事業者制度の維持、継続中。
4. 情報提供、啓発活動の推進 : 関連事業者との情報交換継続。 架装物チラシ・協力事業者制度参加事業者リストの配布継続。

自主取組みの内容	進捗状況
<b>1. リサイクル設計の推進</b> (1) 易解体性向上および適正処理の推進 [目標: 易解体性バンの試作、製品展開]	①各社にて各種易解体性バンの開発、製品化を展開中。 ②易解体性バンは2009年度車工会会員バン生産の8.9%(35,309台)(前年比+2%)を占める。 ③易解体性向上のため、解体業者団体と連携して平ボデー、バン型車の解体実験を実施、解体時間短縮のための課題を抽出中。
(2) 適正処理困難材(木材、断熱材)の代替材検討 [目標: 製品展開]	①木 材: 木材不使用および木材使用量削減、断熱材との混合使用を削減した冷蔵・冷凍バンの生産を拡大中。 ②断熱材: 環境に優しいスチレン系断熱材に殆ど切替え済み。
(3) 解体マニュアル作成 [目標: 主要3機種をカバー]	①解体事業者等から要望のあった、主要3機種(レントゲン車、冷蔵・冷凍バン、タンクローリ)の解体マニュアルについて対応完了。 ②車工会会員主要各社ホームページにて24社・131件(前年比±0社・+3件)掲載、取り扱い説明書等についても公開中。 ③平ボデー、バン型車について解体業者団体と連携して解体実験を通じて得られた解体作業実態について解体マニュアルへの反映を推進。

### 【タンクローリ解体マニュアルの記載例】(参考資料 15—1)



一般タンクローリ架装物解体マニュアル  
タンク本体、配管材質: 鉄、アルミ、ステンレス

2.1 解体マニュアル

品目番号	品目名	解体方法	注意事項
	事前処理Ⅰ (残液処理)	タンク内種載物の残液の洗浄処理を専門業者にて実施する。配管、ホップ、バルブ等含む。必ず中身を確認願います。	引火、融欠、中毒等に注意して下さい。
	事前処理Ⅱ (残圧、洗浄残液処理)	残圧及び洗浄残液を抜く。抜き方については、「解体前の準備 残圧、洗浄残液の抜き方」を参照願います。	
	事前処理Ⅲ	主要な外装部品を取り外す。	
車両全体	架装物(タンク)	マウンティングブラケット等のボルトを取り外し、シャシと架装物を切り離す。	ホップ付の場合は、ドライブシャフトがシャシ側とつながっていますので、切り離して下さい。
車両全体	タンク割	タンク割付部品を取り外す。	
	タンク	タンク本体	溶解、切断等により、断熱材により分別します。
1	マンホール	金属類とゴム、樹脂類に分別します。	
2	緊急閉鎖装置	分解又は内部可溶物を溶解して分別します。	材質はタンクと同じです。内部スプリングが飛び出すので怪我に注意して下さい。
3	ホトムバルブコントロール	金属類とゴム類に分別します。	
4	ホトムバルブ	内部洗浄残液を除去し、金属類とゴム、樹脂類に分別します。	引火等に注意して下さい。
5	ハ化ベンダ	同上	材質はタンクと同じです。

(4)環境基準適合ラベルの設定  
〔目標：車工会会員生産車の80%に貼付〕

〈環境基準適合ラベルの要件〉

- ①3R判断基準ガイドラインの作成
- ②解体マニュアルの作成・公開
- ③製造業者名の表示
- ④樹脂部品材料名の表示

## 2. 環境負荷物質の使用削減

### (1)鉛

〔目標：使用量 2002年度 60g/台  
→2006年度 30g/台に半減〕

### (2)水銀

〔目標：2005年1月以降使用禁止  
(照明装置等を除く)〕

### (3)六価クロム

〔目標：2008年1月以降使用禁止〕

### (4)カドミウム

〔目標：2007年1月以降使用禁止〕

＊環境負荷物質対応状況は車工会会員主要各社ホームページで公開。

## 3. リサイクル・適正処理の推進

### (1)協力事業者制度の構築と拡充

〔目標：制度への登録拡充と  
各ブロックへの適正配置〕

#### 車工会ホームページに掲載



## 4. 情報提供、啓発活動の推進

2004年3月、環境基準適合ラベルの要件を設定し、2005年度に目標80%を達成済み。(2009年度：86%) (前年比 +1%)



製造業者名表示



バン型車の表示例

樹脂材料名表示

2005年度より目標達成を継続。

〈鉛フリー化の事例〉ダンプ、タンクローリ等の電着塗料への切替

2004年末より目標達成を継続。

〈水銀フリー化の事例〉高所作業車の水平保持用のスイッチ

2007年末より目標達成を継続。

〈六価クロムフリー化の事例〉金具類(例：蝶番、ボルト、ナット)  
油圧ホースガードワイヤ

2006年末より目標達成を継続。

〈カドミウムフリー化の事例〉マーカーランプ、タンクローリ自動開閉装置の温度ヒューズ

協力事業者を拡充し、全国各ブロックへの適正配置を継続中。処理分野の拡大も継続。解体事業者の要望をふまえて丸ごと処理事業者ならびにタンクローリ残液の分析・処理・洗浄事業者を追加した。協力事業者の状況を定期的に把握し、必要に応じ車工会ホームページを更新、情報提供を継続。

#### 参加事業所数(会社数)の現状

	発足時 2004年3月	現状 2010年6月
参加事業所数 (会社数)	68 (63)	165 (119) (前年比 +2社・+3事業所)
木材	32 (31)	73 (62)
断熱材	34 (34)	86 (67)
F R P	40 (35)	102 (76)
丸ごと処理(※)	—	63 (39)
タンクローリ残液分析、 残液処理・洗浄	—	38 (23)

(注)複数品目で参加の事業者があるため、品目毎の合計値と参加事業者数は異なる。

(※)丸ごと処理とは素材ごとに分離せず、架装物アッセンブリー状態でシュレッダー等で処理。

### (1)架装物チラシの作成、配布

関係団体(2010/6現在)へ配付。(15,000部)

(参考資料 15—2)

### (2)協力事業者制度参加事業者リスト改訂版作成、配布。

(10,000部、解体事業者等へ配布。)

(参考資料 15—3)

### (3)解体事業者への情報提供

商用車架装物処理に関して解体事業者団体等と意見交換を継続。